

防衛大臣 中谷 元 様  
沖縄県知事 翁長 雄志 様  
東村村長 伊集 盛久 様  
国頭村村長 宮城 久和 様

## 沖縄島北部・高江と安波の米軍ヘリパッド建設に関わる要望書

南北に長く亜熱帯から寒帯の気候帯を含む日本列島は、非常に豊かな昆虫相を形成し、現在、約3万2千種が記録されています。中でも、琉球列島は鹿児島県南部から沖縄県全域にかけての多数の島々からなり、“東洋のガラパゴス”とも呼ばれるほど固有かつ多様な生物が生息していることで知られています。琉球列島の昆虫相は、九州から南下した旧北区系要素、台湾から北上した東洋区系要素、あるいはインド・インドシナ北部や中国大陸に起源を持つ西部支那系要素など、由来の異なる分類群が複雑に入り混じり、それらが海面の変動や島の隆起沈降に伴う分布域の分断、隔離によって多数の固有種や固有亜種に分化したと考えられています。このように複雑多岐な生物地理学的、地史的背景を持つ南西諸島は、日本だけでなく世界でも有数の生物多様性に富んだ地域となっています。

しかしながら、近年、琉球列島の貴重な昆虫類は、開発事業に伴う生息地の破壊や生息環境の悪化、外来種の侵入や定着、一部のマニア等の過剰な採集行為等による攪乱で、かなり危機的な状況に陥っています。生物多様性の低下は、生態系の機能を損ない、人類の生存を脅かす憂慮すべき事態です。特に昆虫類が、あらゆる生態系において圧倒的な多様性を誇り、生物の生存基盤である食物連鎖の維持に重要な役割を果たしていることを考え合わせると、琉球列島の貴重な昆虫類の多様性を保全することは極めて重要な課題であるといえます。

こうした中で、1996年、SACOの決定に日米が合意し、2006年、日本政府が沖縄県国頭郡の東村高江および隣接する国頭村安波に合計6つのヘリパッドを建設すると発表しました。2014年までに高江（N4地区）の2つのヘリパッドが完成し、2015年2月、沖縄防衛局はこの2か所を米軍に先行提供しました。高江や安波を含む「やんばるの森」の上空では、すでにオスプレイ等の米軍機が低空で飛行しています。

この沖縄島北部にある「高江」および「安波」には、環境省レッドリストの準絶滅危惧種であるリュウキュウウラボシジミが多く生息しています。このチョウは沖縄島の国頭村、大宜味村、東村および西表島の自然度の高い清流沿いに局所的分布を示し、個体数の少ない種です。ところが、高江と安波の両地域では本種の個体数が多く、現在知られている生息地の中では最大規模の個体群密度を維持し、本種にとっての「最後の楽園」と考えられます。幼虫も新川川沿いの林内で発生しており、その清流に強く依存しています。このため、ヘリパッド建設に伴う森林伐採や赤土の流出による生息地の衰退および消失、オスプレイを含む米軍機の低空飛行や離着陸に伴う爆風や高熱の下降気流による生息環境の悪化などの影響から、本種の存続に甚大な被害を及ぼし、絶滅する危険性が著しく高いと考えられます。

さらに、「高江」および「安波」には沖縄固有種かつ準絶滅危惧種のリュウキュウウラナミジャノメが多産する他、準絶滅危惧種イワカワシジミ、沖縄県指定天然記念物のコノハチョウやフタオチョウも生息しています。国指定天然記念物および種の保存法に基づく「国内希少野生動植物種」の指定種ヤンバルテナゴコガネを含む、多くのやんばる固有種・固有亜種もこの地で確認されています。つまり、わ

が国における生物多様性の保全上、極めて重要な昆虫類がヘリパッド予定地に多数生息しております。島嶼という閉鎖的で面積の限られた場所での開発等による攪乱は、大きな面積をもつ日本本土等に比べて、個々の生物や生態系へのインパクトの程度が極めて大きく、その影響は計り知れません。

このような理由から、日本鱗翅学会は「高江」と、高江に隣接する「安波」における米軍ヘリパッド建設予定地とその周辺域の環境保全にあたり、すでに環境アセスメントの調査は終了しているものの、今後も昆虫類をはじめ動植物の関係学会の専門家を交えて、さらなる細部に渡る十分な検討を行ない、同島の生態系に及ぼす影響を最小限度に抑える努力が必要と考えます。そこで添付の通り、防衛大臣、沖縄県知事、東村村長および国頭村村長宛に要望書を送付しました。本件に関しまして、貴職にもご尽力賜りますようお願い申し上げます。なお、本学会は専門家集団としていつでもご協力させて頂く用意がございますことも最後に申し添えます。

2015年3月23日

日本鱗翅学会

会長 石井 実

(大阪府立大学 教授)

〒599-8531 大阪府堺市中区学園町 1-1

大阪府立大学 大学院生命環境科学研究科

Tel. 072-254-9412; Fax. 072-254-9694

担当：自然保護委員長 矢後 勝也

〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1

東京大学 総合研究博物館

Tel. 03-5841-8455; Fax. 03-5841-8451

Email [myago@um.u-tokyo.ac.jp](mailto:myago@um.u-tokyo.ac.jp)

(本件に関わる連絡の必要がありましたら、上記担当自然保護委員長宛にお願い致します。)